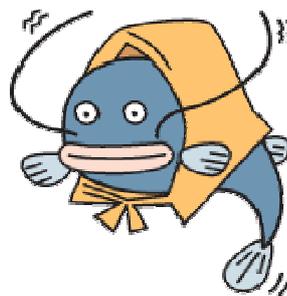


緊急地震速報 なまずきん

マンスリー レポート
2009年 5月号



発行元 株式会社 ハレックス

「気象庁防災情報XMLフォーマット」 (Ver.1.0)を策定

気象庁は、気象警報、地震・津波情報等の防災情報の幅広い活用を目的として、XML コンソーシアムの協力を得て、「気象庁防災情報XMLフォーマット」(Ver.1.0)の仕様を策定しました。今後、この仕様に基づいて各種防災情報の提供の準備が進められていくことになります。

気象庁は、自然災害の軽減、国民生活の向上、交通安全の確保、産業の発展などに寄与するため、警報、注意報などの各種防災情報の改善・高度化に努めています。この防災情報の一層有効な活用を促進するため、気象庁は、利用者の様々なニーズへの対応やシステム効率などの観点から、提供する情報の形式について、情報の種類毎に固有の形式で定めているこれまでの方式に代えて、汎用性が高く、広く一般に普及しているXML形式を採用することとしました。

情報形式の検討及び仕様の策定にあたっては、平成19年度からXMLコンソーシアムの協力を得て作業を進め、また、仕様案に対する意見公募を2回実施するなど、多くの皆様のご支援・ご意見を

頂き、今般、気象庁は「気象庁防災情報XMLフォーマット」(Ver.1.0)の仕様を策定しました。

また、公開に先立ち、XMLコンソーシアムでは、「気象庁防災情報XMLフォーマット」(Ver.1.0)について、数多くの動作環境において検証作業を実施し、運用上の問題のないことを確認しています。

「気象庁防災情報XMLフォーマット」の仕様の詳細、サンプル電文等は下記のホームページから入手頂けます。また、今後同ホームページにおいて、同仕様の利用に必要な情報を提供してまいります。

[気象庁防災情報XMLフォーマット 情報提供ページ](http://xml.kishou.go.jp/) (<http://xml.kishou.go.jp/>)

気象庁は、これまで、気象警報、津波警報、地震情報等、それぞれの防災情報毎に情報の性質・利用形態などを考慮し、それぞれの情報について気象庁独自の電文形式(フォーマット)で作成・発表してきました。この方式は、防災情報の種類が少なく、情報の伝達がFAXや低速の通信回線の時代はそれぞれの情報に適していましたが、高度にICT化された現在社会において、より詳細で高度化された防災情報をより効果的に活用していただくために、新たな防災情報の提供様式を検討すべきと考え、「気象庁防災情報XMLフォーマット」を策定することとしました。

	これまで	「気象庁防災情報XMLフォーマット」での取り組み
データの形式	気象庁独自の電文形式	現在、主流となっているXMLを導入
防災情報のフォーマット	気象・地震・津波・火山等、現象毎にその特性に着目した個別のフォーマット	統一したフォーマット

(気象庁広報用資料及び気象庁防災情報XMLフォーマット情報ページを抜粋・一部加筆修正)

なまずきんの働き (2009年5月)

【発信数概要】

緊急地震速報(予報)が30個の地震に対し発信され、発信の総数は212通でした。平成18年8月に先行運用が始まってからの月平均データと比較しますと、地震数は約57%、発信数は約69%と4月も地震の少ない月でした。今年に入ってか

ら緊急地震速報(予報)を発信した地震数は、ひと月平均約60数%と少ない状況が続いています。

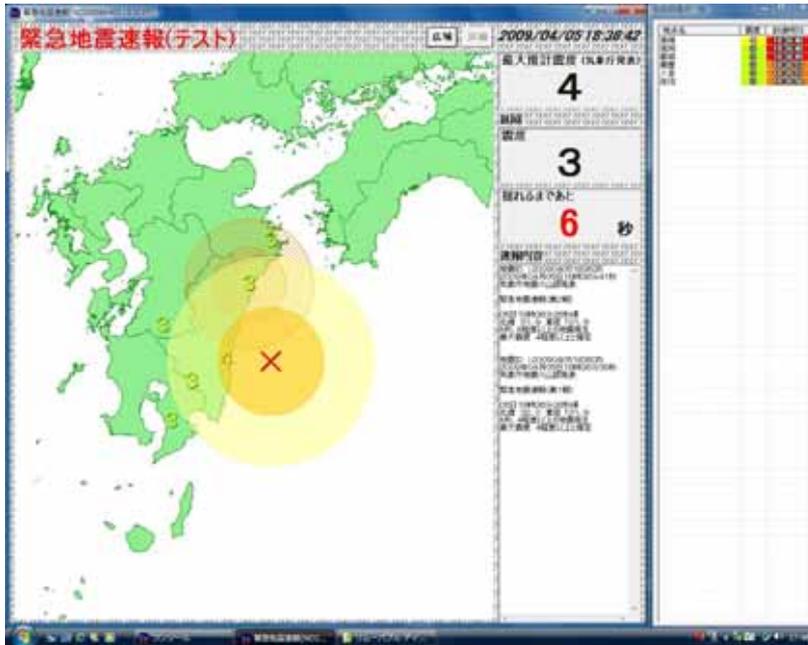
また、推定震度4以上と報じた地震は3個、このうち震度4を観測した地震は2個、震度3が1個でした。なお、平成18年8月以降推定震度4以上と報じた地震の月平均発生数は約6.5個です。

震度4以上を発信または観測した地震(2009年4月)

日	時分	地域名	深さ(km)	マグニチュード	速報発信数	速報最大震度(最終報震度)	観測最大震度(地点数)
05	18:36	日向灘	28	M5.6	7	4(4)	4(2)
21	07:54	茨城県沖	41	M4.6	9	4(3)	3(1)
28	20:21	釧路沖	38	M5.4	10	4(4)	4(5)

【日向灘の地震】

5日18時36分に日向灘の深さ28kmでM5.6の地震が発生し、宮崎市内の2地点で震度4を観測したほか、九州から中国、四国地方の一部にかけて震度3~1を観測しました。今回の地震は、発震機構



(地震を起こした断層の位置や方向、地震の際の断層の動きのこと。メカニズムともいう)などから沈み込む太平洋プレートと陸地のプレートとの境界で発生した逆断層型の地震と考えられています。高度利用者向け緊急地震速報の第1報は、地震発生後の約14秒後に発表されました。左図は延岡に着目したときの第2報を受信・処理した時点での“なまずきん”による再現画面ですが、主要動が到達するまでには6秒程度(第1報を受信・処理した時点では約9秒)の余裕があったことがわかります。

高度利用者向け緊急地震速報の第2報が発表された時点でのP波、S波の伝播状況を示す“なまずきん”の画面。×印が震央で、外側の円がP波、内側の円がS波の拡がりを現わしており、S波が延岡市に到達するまで6秒、推定される震度は3であることを示しています。延岡市で観測された震度は3でした。

緊急地震速報で最大震度が3と推定された地震(2009年4月)

日	時分	地域名	深さ(km)	マグニチュード	日	時分	地域名	深さ(km)	マグニチュード
2	17:39	宮古島近海	54	M5.1	22	20:24	種子島南東沖	37	M4.8
5	13:56	群馬県北部	11	M3.4	24	04:19	奄美大島近海	34	M4.4
5	17:00	日高支庁東部	54	M4.8	25	22:54	岩手県沖	37	M5.0
14	01:58	千葉県東方沖	46	M4.2	28	06:37	茨城県沖	48	M5.0
21	18:57	福島県沖	45	M5.2	30	02:21	与那国島近海	27	M5.2